

工大 広報

Tohoku Institute of Technology Magazine

No. **311**
2023.10 AUTUMN

東北工大の「いま」と「ミライ」が分かるマガジン



いふたつにわたって、地域の農産物をもっと多くの人の手に！

未来のエスキースを描く。

特集

LABORATORY REPORT 研究室通信

地域の課題を改善に導くための
カタチに捉われないデザインを

ライフデザイン学部 産業デザイン学科
坂川 侑希講師

有害物質の低減と省エネや効率向上を
推し進めるための環境適合溶媒を

工学部 環境応用化学科
佐藤 善之教授

CONTENTS

P08 【TOPICS】地域連携センター

P09 【TOPICS】研究支援センター

P10 【TOPICS】第38回北海道科学大学・
東北工業大学総合定期戦

P11 【TOPICS】第46回千葉工業大学硬式野球部定期戦

P12 【TOPICS】「OPEN CAMPUS 2023」を開催

P13 【TOPICS】仙台七夕まつりで本学学生が制作した七夕飾りが銅賞を受賞

P15 【Information】イベント情報、10~1月のスケジュール



TOHOKU INSTITUTE
OF TECHNOLOGY

LABORATORY
Report

研究室通信 Vol.21

ライフデザイン学部
産業デザイン学科さか がわ ゆう き
坂川 侑希 講師 *Sakagawa Yuki*

PROFILE

2014年3月に東北工業大学ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科(現:産業デザイン学科)を卒業後、札幌市立大学大学院デザイン研究科デザイン専攻博士前期課程へ進学し、2016年3月に修士(デザイン学)の学位を取得。その後、2019年4月に東北工業大学ライフデザイン学部産業デザイン学科(2020年4月に名称変更)非常勤講師を経て、2021年4月より現職。日本デザイン学会正会員、日本教育工学会正会員。

担当科目

アイデア基礎および同演習I・II、デザイン計画および同実習B・C、インタラクションデザイン論、情報デザイン論、デザイン論I・II



【研究テーマ】 地域の課題を 改善に導くための カタチに捉われない デザインを

人々の体験や繋がりをヒントに、生活の一部になるような生きたモノ・コトの創出とそのプロセスの可能性を追求している坂川先生。デザインのプロセスを広い視野で捉え、観察と共感によって人間を理解し、他者と共創するスキルを養うデザイン教育にも注力しています。自らは“まだまだ未完成”と語りながらも、先生の信念に共鳴して地域での活躍が見込まれる若き才能が羽ばたく時を待っています。



丸森町の養蚕農家へ向けたプレゼンテーションの様子

社会の課題を見出す洞察力を持ち 広い視野で発想を生み出すデザイン教育

—— 本学の研究で重視していることは。

私は、情報処理という観点から人の知の働きや性質を理解する認知科学をベースにした情報デザインの分野で研究に取り組んでいますが、本学に着任後は、デザインのプロセスを重視するとともに、デザイン教育の場づくりにも力を入れています。そもそも、デザインというのは、現状を改善に導いたり新しい価値を生み出したりする行為だと考えていますが、そこには必ず人が介在しています。この研究室では、デザインの最終的なアウトプットから考えるのではなく、まずは、身の回りにはどんな問題があるか、何か改善すべきことはないかを捉えるための洞察力を深め、様々な知見を取り入れて思考することから着手しています。

—— 教育に注力する理由とは。

小・中学生の頃からずっと、将来は教育者になりたいと思っていました。数式を暗記して機械的に答えを出すような教育ではなく、どうして、なぜ、と思考を巡らせて回答にたどりつく行程を歩むことこそが、継続的で能動的な学びに繋がると考えたからです。

他分野の人々と知恵を重ねていき 共創の先で得られる価値を

——学生が研究に取り組む上で大切なことは。

学生に対しては、誰かと一緒に考え、一つのものを作り上げていく“共創”の意義を強調しています。できるだけ多くの人を巻き込みながら、何か一つの目標に向かって取り組む卒業研究を一年の内に完成させるため、自分の周囲や身近な地域でテーマを見つけるよう指導しています。いずれは、社会的に重要な課題に取り組む人材になってくれることを望んでいます。まずはその中に含まれる小さな問題を1つずつ解決していくことから始めて欲しいです。だから、この研究室では、多様な人々とのコミュニケーションを通じて課題の定義と解決を図るアプローチをとっています。

——どんな研究手法で取り組んでいますか。

研究に取り組む上では、特に観察と調査に重きを置いています。まずは文献調査から着手してもらい、類似したテーマの研究論文などがあれば参考にし、見当たらなければ実際に現地へ足を運んでもらいます。そこでインタビューやアンケートが必要であると判断したら、その状況に応じた方法をレクチャーしつつ、プラスアルファでどんな調査が必要なのか、学生自身が独自の方法を確立して取り組むことを強く意識させるようにしています。

——デザイン研究における課題とは。

私は、4年次の卒業制作で高齢者の健康維持に役立つ「バリアを用いたウォーキングコースマップのデザイン」に取り組みました。その調査に協力してもらった仙台フィンランド健康福祉センターのスタッフや地域の高齢者にマップの完成を喜んでもらったので私自身は十分な満足感が得られたのですが、最終発表で教員陣から



1 年に2回行っている小学生を対象にしたデザインベースのプログラミング教室



2 丸森町の伝統産業である養蚕を、より多くの人に知ってもらうためのきっかけづくりを考察したプロジェクトで、養蚕農家を見学



「この成果は正しい成果なのか」と問われ、大きな気づきを得ました。デザインの成果は、そのユーザーからの評価について論議することに終始してしまいがちですが、たとえ専門家でなくともその価値を理解できるよう、広く共有していくことに発展の先があるのだと考えています。そして、研究成果を論文としてまとめたり、他の地域でも再現性があるかを検証したりすることで学術的な議論を盛んにし、学問としてのデザイン研究の基盤をより強固にしていこうとも自分の使命だと考えています。

豊かな社会の理想図を描ける デザインのスペシャリストに

——社会におけるデザインの役割とは。

人のために役立ちたい、技術開発によって世の中を豊かにしたいという思いは、学問分野を問わずどんな研究者も抱いている目標で、様々な意見や知見を俯瞰してまとめることができるのがデザインの力だと思っています。ゆえに、プロジェクトを成功へ導くための先導者は、デザインの専門家が適任であると私は考えています。

——坂川先生にとっての「未来のエスキース」とは。

一言で表すならば「可能性」でしょうか。多彩な知識や経験で自分を満たし、未来を描くための出発点とし、そこから、選択肢を増やすためのプロセスを歩んでいくことが重要だと考えます。また、この研究室では、学生のパーソナリティーを重視しています。誠実さが持ち味だったり共感性が高かったり様々な特性を備えた学生が見受けられますが、それこそが可能性の幅を広げるエッセンスとなるでしょう。それぞれの特性を活かして自分らしいデザイン実践ができるよう指導できればと思っています。

COLUMN

おしえてください
研究者の「こころの中」

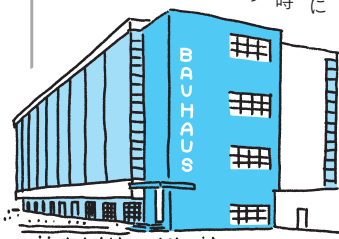
わたしと
建築

「デザイン」の
源流を辿る

父が住宅設備メーカーに勤めていたこともあり、小さい頃から建物に触れる機会が多く、自然と建築への興味が深まったことを覚えています。結果的には、その興味が「デザイン」にまで広がりが、気づけば大学でデザインを教えているわけですが、建築は今の私にも多くのヒントを与えてくれます。

そもそも「デザイン」の歴史を語る上で欠かせない「バウハウス」は、建築家であるヴァルター・グロピウスによって設立され、建築を中心に芸術を統合しようとする教育プログラムを実践していました。つまり、デザインの源流は建築にあるのです。そして、ルイス・サリヴァンが「形態は機能に従う」、ル・コルビュジエが「住宅は住むための機械である」と表現したように、合理的で美しいものを追求するというデザインにおいて欠くことができない思想を、建築家たちは提供してくれたと考えています。

そんな建築に
思いを巡らす時間
は私にとって、
初心を思い
出させてくれる、
大切な
時間です。



最前線の研究をレポート!

LABORATORY REPORT

研究室通信 Vol.22

工学部 環境応用化学科

さとう よしゆき *Sato Yoshiyuki*
佐藤 善之教授

PROFILE

2004年2月まで広島大学大学院工学研究科の助手を務めながら、2001年に同大で博士(工学)の学位を取得。2004年3月から東北大学大学院工学研究科の准教授、客員教授、特任教授を歴任。東北工業大学工学部環境応用化学科には2019年4月に教授として着任し、2022年4月に学科長となり現在に至る。東北大学大学院工学研究科の客員教授も兼任中。1998年に日本熱物性学会賞奨励賞、翌年に化学工学会奨励賞、2005年にプラスチック成形加工学会論文賞を受賞。

担当科目

化学工学、化学数学I、化学数学II及び同演習、応用化学実験、有機合成化学、大気環境工学



【研究テーマ】 有害物質の低減と 省エネや効率向上を 推し進めるための 環境適合溶媒を

これまで、塗装や洗浄、印刷といった多くの工業的用途で有機溶媒が利用されてきましたが、環境に対する意識がますます高まっている近年の勢により、超臨界流体やその混合系などからなる流体の利用に、産業界からの関心が集まっています。佐藤先生の研究室では、熱力学や相平衡に関する知識を駆使しながら、これらの流体の特性を理解して研究成果を積み重ねることで、人や環境に優しい化学プロセスの開発を支えています。



佐藤研究室の様子

食品や工業で活用の未来が望める 超臨界流体技術のポテンシャル

——超臨界流体とは何ですか。

物質には固体・液体・気体の三態がありますが、温度と圧力を上げて臨界点に達すると、液体と気体の密度が同じになり、それを超えると物質は液体と気体の性質を併せ持った状態になります。それを超臨界流体と呼んでいます。代表的なものとして挙げるなら水と二酸化炭素でしょう。二酸化炭素は、31度という比較的低い温度と7.38メガパスカルの圧力下で超臨界状態となるので、食品加工や工業の分野において幅広く活用されています。例えば、コーヒーからカフェインだけを取り除いたデカフェは、最も商業的に成功している事例と言えるでしょう。ビールの苦み成分であるホップエキスや生薑エキスの抽出にも利用されています。超臨界流体は、物質から特定のものを抽出する際に、選択性を細かくチューニングできることが大きな利点となります。溶液として水を使う場合は温度の高低を変えるだけにとどまりますが、超臨界流体の場合、温度と圧力の両方をチューニングすることで多様な用途に役立つ可能性を探ることができ、工業的に訴求性の高い技術だと言えます。



幅広い技術応用を探る研究によって 環境に優しい製造プロセスに貢献

——どんな工業技術に適用されていますか。

高校生向けの出前授業では、超臨界流体を使うと環境に優しいプロセスにつながるという切り口で話をしています。例えば、有害なガスの浄化に使われている有機ガス除去用エアフィルタは、ある程度汚れを吸着してしまうと廃棄していました。これを、二酸化炭素の超臨界流体で洗浄して再利用できるようにする技術が開発されました。また、衣類のドライクリーニングでは主に石油系溶剤が使われているため、揮発性有機化合物が大気に排出されてしまいます。これに代わる洗浄溶媒として二酸化炭素の超臨界流体の活用が期待されています。昨今の環境に対する意識の高まりにより、二酸化炭素や水を使う超臨界流体への注目度は高まっていると感じています。

——超臨界流体を活用する目的は何ですか。

現在、産業界では、有害な有機物質の大量使用や大量生産にともなう莫大なエネルギー消費、廃プラスチックの処理など、たくさんの課題を抱えています。そこで、超臨界流体を工業的に利用する研究を進めています。溶剤系塗料に含まれるキシレンやトルエンなどの削減、重合プロセスにおける省エネルギー化、プラスチック成形のための新たな発泡技術開発と、多くのメリットが生まれます。これは、SDGsの実現を目指す時流に沿った革新的な技術であると考えています。

——どんな研究に取り組んでいますか。

私が取り組んだ研究テーマに、「溶液重合条件におけるポリマー溶液の高圧相平衡」がありますが、これは重合プロセスの省エネルギー化を目指しました。プラスチックの一種であるポリエチ

レンの溶液重合では、溶剤の回収に多大なエネルギーが求められます。超臨界状態であるモノマーのエチレンを多量に重合溶液中に溶解させると貧溶媒として作用し、ポリマーが相分離をおこします。これを利用するとポリマーリッチ相と溶媒リッチ相に相分離するため、溶媒の回収の省エネルギー化が可能になります。この基礎データとなる相平衡(気液平衡、液液平衡)の測定に関する研究に取り組みました。高校の出前授業でも、ポリマー溶液が相分離する様子を装置で観察してもらっています。

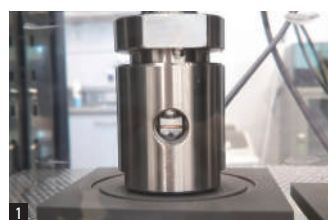
研究者としての信念を抱きながら 産業界のニーズに応える研究成果を

——研究に臨む姿勢に大切なのは。

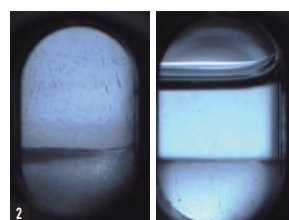
私の研究アプローチは、しっかりプランを練って実験に臨み、最小限の努力で最大の効果を得られるよう知恵を尽くすことを心がけています。研究室の学生にも、ちゃんと論理として突き詰めてから実験やデータ採取に取り組むよう指導しています。時には、トライ&エラーの繰り返しで得られる成果もあるでしょうが、科学的な論拠で裏付けた下準備をしておくことが、この分野の研究者として大事な姿勢だと思っています。

——佐藤先生にとっての「未来のエスキース」とは。

私が取り組んだ研究が、産業界でのコスト試算や検証などを経て、新たな技術革新や製品開発の土壌になってくれることを望んでいます。そのベースとなる基礎的なデータを提供することが、私にとっての「未来のエスキース」だと考えています。世の中を驚かせるような科学の新発見は目立つし、誰の目にも分かりやすい成果なのかもしれません。私は、世の中が何を求めているかに嗅覚を働かせ、そのニーズに応えられるような研究を続けていきたいと思っています。



1 ポリマー溶液相分離観察装置



2 相分離の様子、左：気液共存、右：気液液共存

COLUMN

おしえてください
研究者の「こころの中」

わたしと設計製図

装置自作のススメ

化学系の学科の出身のはずなのですが、かなり機械系に近い学科だったため、学生時代には化学実験などの他に設計製図や工作実習が必修でした。あまり真面目な学生ではなかった小生は製図の締め切り前など徹夜するのが日常で、特に実験レポート締め切りと製図の締め切りが重なった時には、身から出た錆とはいえ正直つらかった思い出があります。

一方で研究室に入ってから、卒論研究のための装置を作るのに図面がないと学科工作室で相手にしてもらえない。書いても散々ケチをつけられ(正確に言うところ指導いただいたのですが)何とか作っていただくような感じでした。大学院、助手になると研究費も十分になったので、研究のための装置の自作にも拍車がかかり、そのうち小生の設計スキルも上がってきて、今でも大半の装置を設計製図して自作しております。これが功を奏して、他では真似できないような特色を持った装置をいくつも発表してきました。

専門の超臨界流体関係の書籍執筆の話があると、同業者で同じようなことをする者もいないので、かなりの確率で装置設計の節の執筆を依頼されます。まさに人と違うことやっついて、よかったと思う点ですが、正直、専門の相平衡の執筆をしたい今日この頃です。



ホッペで
教員×学生

Lab Talk!

研究室対談

ライフデザイン学部 産業デザイン学科 坂川研究室

佐藤さん 坂川先生が着任した年の年に「情報デザイン論」を受講したんですが、同級生とうるさくしていたら叱られてしまいました…。

坂川先生 そうだっけ? 記憶に無いなあ。

佐藤さん 歳があまり離れていない若い先生だから、なんとなく親近感を持っていたので、こんな怖い面もあるのだと驚きました。

坂川先生 そりゃあ、講義を受け持つ責任者として、

デザインの分野にも興味が高まってこの大学への進学を決めました。

坂川先生 この研究室を選んだのはどうして?

佐藤さん 先生が授業の中で、「デザインにおける共感の重要性」について語ったのを聞いて、あっ! 同じ考え方をしている人がいるんだと感動したんです。

坂川先生 おお、やっぱり似た者同士! 佐藤さんは、アルバイト先のデザイン会社で、トマトのパッケージデザ



ライフデザイン学部
産業デザイン学科4年

さとう けいご
佐藤 慶悟さん

ライフデザイン学部
産業デザイン学科

さか がわ ゆう き
坂川 侑希 講師

人の心を動かす
デザインの力を知り
地元農産物の魅力を
より多くの人に伝える
パッケージ制作を。

しっかり引き締めなければいけないのは当然でしょ。それから敬遠したりはしなかったの?

佐藤さん 「インタラクティブデザイン論」の講義も受けていたのですが、授業の内容がとても面白くて、他の講義も受けたいと思ったんです。

坂川先生 そうなんだ。佐藤さんは、いつも後ろの席で静かに授業を聞いているタイプだったので、自分の学生時代を重ねてシンパシーを感じていました。

佐藤さん …先生と似ていますか? 結局、先生の担当科目をほとんど受講していて、もっとデザインの話をお聞きしたくて研究室に入ろうと志望しました。

坂川先生 以前からデザインの分野には興味あったの?

佐藤さん 子どもの頃は絵を描くのが好きだったので、アートの方面に進めればと思っていたのですが、城南高校で啓発ポスターなどの公募で受賞するようになって、

インを手がけているんだよね。

佐藤さん はい、卒業制作の「宮城県の地産地消の拡張を目指したパッケージデザイン」の課題として、消費者にアピールする商品ラベルのリデザインを行っています。

坂川先生 まさに地域生産者の声に耳を傾ける取り組みだね。

佐藤さん 金曜のゼミでは、自分の喉元で引っかかってなかなか出てこない発想やアイデアを取り出してもらえるような的確なアドバイスをもらえるので、研究室に来るのが楽しみになっています。先生は学生と同じか、それ以上の熱量で思いを返してくれるのがうれしいです。

坂川先生 同じ学科の先生たちと、デザインについてディスカッションするのが好きなんだよね! 今度、私とことん語り尽くしてみる?

佐藤さん いいですけど…白熱して終わらなさそう…。

研究活動を通して、日々繰り返されている先生と学生の対話。
そんなお互いのリスペクトに満ちたトークに耳を傾けてみませんか。

過去の対談は
こちらから！



工学部 環境応用化学科 佐藤研究室

佐藤先生 高橋さんには以前、大学案内パンフレットの撮影で協力してもらいましたね。

高橋さん はい、環境応用化学科を紹介する冒頭ページのイメージ写真として掲載されました。撮影の時、先生も立ち合いされましたよね。

佐藤先生 うん、撮影場所に実験室を使いたっていう依頼があったからね。

高橋さん カメラマンに実験シーンについてのアドバイス

用いてセラミック無機粒子の表面に有機物を修飾する実験を観察し、ナノ粒子の圧力(P)・体積(V)・温度(T)関係の計測、データ採取を行っていきしたいと思います。

佐藤先生 この研究は、文部科学省の「ナノ材料の界面・構造制御プロセスサイエンス・プロジェクト」に採用されていますし、今後、幅広い分野の開発に関わる重要なデータとなりますので、ぜひ頑張ってください！

高橋さん 今は、先輩たちが作成した論文を読んで



理系進学を望む
後輩の背中を押し
研究者として
より高みを目指すために。

工学部 環境応用化学科

さ どう よし ゆき
佐藤 善之教授

工学部 環境応用化学科4年

たか はし さ え
高橋 紗瑛さん

や、私にポーズのご指示もいただきました。

佐藤先生 学校案内パンフレットを手にした方に、正しく本学の環境応用化学科を伝えたいと思ったからね。この写真はホームページにも使われているし、学科の同級生もよく見るでしょ？

高橋さん 友達に見せた時、防護用のゴーグルをかけていたので最初は分からなかったみたいなんですけど、私がモデルだと言ったら驚いていました。先生は、いつも講義で親身に指導してくれる印象があったので、撮影の時も真摯に対応してくださったと感じました。

佐藤先生 高橋さんも、手を挙げて質問してくれる熱心な学生だという印象を持っています。これから高橋さんは、「有機修飾ナノ粒子のPVT測定」の研究に取り組むんですね。

高橋さん 先輩たちの後を引き継いで、超臨界流体を

準備している段階ですが、これから正確なデータ採取と集計に努めたいと思います。

佐藤先生 そういえば、この研究室で女性は高橋さん一人でしたね。

高橋さん そうですね。でも学部・学科を全体で見れば、女性の学生数の割合はそれほど少なくないと思います。

佐藤先生 昔に比べると、女性研究者の活躍も目立ってきましたからね。

高橋さん 私がこれから、研究者として成功するための秘訣を教えてください。

佐藤先生 常に向上心を持ち、もっと勉強してください！

高橋さん 直球の回答ですね…確かにごもっともです。

佐藤先生 高橋さんが研究者として頑張っている姿に憧れて、後についてくる後輩が現れるよう、ぜひとも上を目指してください。

地域連携センター【CRC: Center for Regional Collaboration】

地域の課題解決や活力創出に貢献するべく事業を展開しています。

◆令和5年度市民公開講座の紹介

2023年6月2日(金)～2024年2月9日(金)

工学、建築、デザイン、人文社会系や一般教養までバラエティ豊かな講師陣による市民公開講座を開講します。遠方の方でも気軽にご参加できるよう、全てオンラインで開催しますので、皆様の受講をお待ちしています。

※講座情報は下記に掲載している他、本学Webサイトに随時掲載します。

全講座オンライン配信



令和5年度 東北工業大学「市民公開講座」スケジュール(10～11月)

開催予定日	時間帯	学科・センター	職位	講演者	講座題目
10月6日(金)	18:00～19:15	産業デザイン学科	教授	篠原 良太	3DCGイラストレーションの秘密
10月20日(金)	18:00～19:15	経営コミュニケーション学科	講師	黎 敏利	企業の社会的責任(CSR)に関する情報開示の現状と課題
10月27日(金)	18:00～19:15	総合教育センター	教授	鈴木 淳	イギリス文学と音楽
11月17日(金)	18:00～19:15	産業デザイン学科	教授	堀江 政広	子育て中の父親を対象とした「パパのびワークショップ」のデザイン

※10月27日(金)は、宮城県教育委員会高大連携講座への提供科目となります。 ※講座題目は変更になる場合があります。ご了承ください。

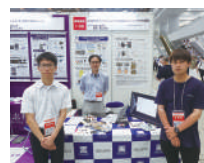
◆大学見本市2023～イノベーション・ジャパンに出展

8月24日(木)・25日(金)、東京ビッグサイトで開催された「大学見本市2023～イノベーション・ジャパン」に、工学部 電気電子工学科 室山 真徳 研究室「人の動作をリアルタイムかつ高精度にセンシングする技術」と、工学部 環境応用化学科 丸尾 容子 研究室「呼気分析による健康管理のための比色シート」を出展しました。

室山研究室ブースでは、実際にセンシング装置を来場者に体験してもらいました。丸尾研究室ブースでは、自宅でも手軽に病気の診断につながる測定が可能という点が評価され、来場者の関心を集めました。両研究室の研究成果に多くの来場者から問合せがありました。

本展示会では、学生も参加し研究成果の説明・実演を行いました。学生にとって、産学連携の場を体験する貴重な機会となり、充実した2日間となりました。今後も、収集した来場者の声を卒業研究に活かしていきたいとのことでした。

地域連携センターでは例年、本展示会含め各種展示会の出展支援を行っています。次年度も本学の研究をPRし、次の展開につなげていきます。



室山 真徳 研究室の展示



丸尾 容子 研究室の展示

◆「地域未来学」現場実習を開催

2021年より本学で開講している「地域未来学」。今回は実際に現地を見て学ぶ機会を設けるべく、8月30日(水)に現場実習を開催しました。「地域未来学」で実際に現地に入っている学習は今回が初めてです。

登米町では、建築学部 建築学科 中村 琢巳 准教授のコーディネートの下、伝統的建築物の保存や利活用、また建築物を活かしたまちづくりについて現地の方からお話を伺いました。

津山町では菊地 良覚 特命教授の案内の下、道の駅津山もくもくランドの台風被害からの復旧、木材を活かした工芸の伝承について現地の方から説明を受けました。

両所とも現地の方の話も交えつつ学習しました。オンライン講座と異なり、実態も体感できる機会になりました。





研究支援センター【RSC: Research Support Center】

企業及び各種団体との共同研究や受託研究を推進し、科研費等の外部資金研究開発推進等を行っています。

◆未来のエスキースを描く。

東北工業大学『東北SDGs研究実践拠点』産学連携交流会 ～研究シーズ発表会～を開催

8月2日(水)に「未来のエスキースを描く。東北工業大学『東北SDGs研究実践拠点』産学連携交流会～研究シーズ発表会～」を江陽グランドホテルで開催し、企業・産業支援機関等の外部参加者ならびに本学教職員、学生含め約170名が列席しました。

第一部交流会では、本学 渡邊 浩文 学長が主催者挨拶を行い、みやぎ産業振興機構 理事長 遠藤 信哉 様(代読 参与兼産学育成支援部長 堀 豊 様)より祝辞が送られました。次に「東北工業大学の研究実践拠点」について石井 敏 副学長より概要説明があり、各研究実践拠点から代表した教員によるシーズ発表を行いました。

また、第二部交流会用として、環境応用化学科 丸尾 容子 教授より「蛍光スペクトルから見る東北の日本酒～宮城編～」のシーズ発表を動画にて紹介しました。

続いて、第二部交流会では22研究所の教員も参加し、パネル展示や活動動画紹介などを行い、参加者同士交流を深める良い機会となりました。

本学ではこのような交流の場を大切にして東北工業大学『東北SDGs研究実践拠点』研究事業、実践活動の活性化を関係者と共に取り組んでいきます。



第一部講演会会場全体の様子



主催者挨拶 渡邊 浩文 学長



祝辞 みやぎ産業振興機構 理事長 遠藤 信哉 様
(代読 参与兼産学育成支援部長 堀 豊 様)



東北SDGs研究実践拠点の概要
石井 敏 副学長兼建築学部長



研究実践拠点のシーズ発表:
気候危機・対策技術研究拠点
環境建築研究所 建築学科 大石 洋之 准教授
「産業施設における暑熱対策のための
熱環境実測とシミュレーション技術」



研究実践拠点のシーズ発表:
Society 5.0研究拠点
センシングフォトンクス研究所
情報通信工学科 縄田 耕二 准教授
「テラヘルツフォトンクスの進展と
センシング応用の可能性」



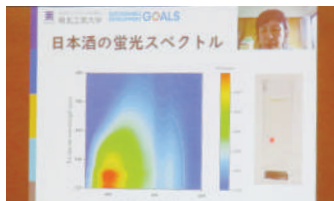
研究実践拠点のシーズ発表:
防災・減災技術研究拠点
安全安心モビリティ研究所
都市マネジメント学科 菊池 輝 教授
「態度変容研究に基づく
コミュニケーションツールの開発」



研究実践拠点のシーズ発表:
医工学・健康福祉研究拠点
生体医工学研究所 電気電子工学科
幸島 彰洋 教授
「睡眠モニタリングシステムの開発」



研究実践拠点のシーズ発表:
地域・地場産業振興研究拠点
地域経済研究所
経営コミュニケーション学科 川島 和浩 教授
「中小企業に学ぶSDGs経営の実践事例
一産学官金の連携強化に向けて一」



交流会用シーズ発表:環境応用化学科
丸尾 容子 教授
「蛍光スペクトルから見る東北の日本酒
～宮城編～」



閉会挨拶 小林 正樹 副学長



第二部交流会の様子

◆第38回北海道科学大学・東北工業大学 総合定期戦を開催

8月22日(火)、23日(水)に、第38回北海道科学大学・東北工業大学総合定期戦を開催しました。この総合定期戦は両大学の間に根付いた歴史と伝統を背景に、スポーツ競技を通じて絆を深める貴重なイベントです。

2019年以來の仙台での開催でプロバスケットボールチーム仙台89ersの本拠地「ゼビオアリーナ仙台」を会場に開会式とオープニングゲームを行いました。

定期戦期間中は連日の猛暑でしたが、こまめな水分補給と休憩を挟みながら、両校の選手とスタッフが協力し、大きな怪我や事故も無く大会を終えることができました。

また、今大会より女子バレーボールが新競技として加わって12競技13種目となり、9勝4敗で北海道科学大学が総合優勝を飾りました。



種目	試合結果
サッカー	5-0 東北工業大学 WIN
ソフトテニス	3-0 東北工業大学 WIN
硬式テニス	1-3
バスケットボール	65-71
剣道	4-5
柔道	3-0 東北工業大学 WIN
アメリカンフットボール	0-12
男子バレーボール	2-3
女子バレーボール	2-1 東北工業大学 WIN
ハンドボール	22-26
弓道	40-73
バドミントン	2-8
卓球	1-6



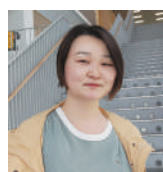
北海道科学大学と東北工業大学の総合定期戦が4年ぶりに対面での開催となりました。これまで40年近く続いてきた伝統を守り続けようとする両大学関係者の強い思いが実り、参加者みんなの笑顔と歓声を生み出したと感じています。

初日の会場となったのはゼビオアリーナ仙台で、開会式とオープニングゲームが盛大に執り行われました。開会式の前には、仙台89ersのアカデミーコーチによるバスケットクリニック、開会式後には両大学の学生代表、学長によるフリースローでの始球式も行い、観客を沸かせていました。フリースロー対決では本学が勝利しましたが、定期戦は9勝4敗で北海道科学大学が総合優勝となりました。

この定期戦は、両大学の学生にとって貴重な交流の場にもなり、会場内では多くの学生が参加して縁日イベント(スーパ

ボールすくい、輪投げ、ダーツ、eスポーツ)なども実施されました。北海道科学大学と東北工業大学は互いに遠く離れた地域にあるので、普段は会うことが難しい人たちを引き合わせてくれた貴重な機会となりました。

今回の交流で新しい関係が生まれ、さらに発展していくことを期待しています。そして、参加した全ての人に良い思い出として残り、今回できた絆をずっと持ち続けてくれることを願っています。



東北工業大学 課外活動連合委員会局長
工学部 電気電子工学科 3年
こうりき
高力 あまねさん



◆第46回千葉工業大学硬式野球部定期戦を開催

千葉工業大学と行なっている第46回硬式野球部定期戦が、8月14日(月)に長町キャンパス野球場で開催されました。台風の接近により悪天候が心配されましたが、無事に試合を行うことができました。

本学先発ピッチャーの伊藤 理壱(生活デザイン学科2年)は初回無失点に抑えるものの、2回に相手の4連打を浴び先制されました。また、後続のピッチャーも千葉工大の猛攻に遭い、失点を重ねていきます。攻撃では、7回に古川 瑠希也(生活デザイン学科2年)の2塁打を口火に、打者一巡の猛攻で3点を返しますが、反撃もここまで。8-3で敗戦となりました。

試合後の懇親会では選手同士が親交を深め、互いの秋季リーグ戦での活躍を誓いました。コロナ禍を経て4年ぶりの開催となりましたが、実り多き定期戦となりました。

今回の試合で浮き彫りになった課題を克服して秋季リーグ戦に臨むとともに、来年の定期戦では勝利をおさめ、リベンジを果たします。



ライフデザイン学部 生活デザイン学科 1年
あびこたくま
硬式野球部マネージャー 安孫子 拓磨さん



開催概要

- ◆日程:8月14日(月)
- ◆場所:東北工業大学長町キャンパス野球場
- ◆結果:千葉工業大学 8-3 東北工業大学
- ◆参加者:伊藤部長、菊地前部長、小幡総監督、目黒監督、荻原ヘッドコーチ、阿部コーチ、須藤コーチ、部員69名

Pick up!

工大クラブ・サークルFILE

FILE

09

体育会系・文化系あわせて50を超えるクラブ・サークルが活動中です。ピックアップしてご紹介します。

今、オンラインがアツい!

eスポーツ同好会

建築学部 建築学科 3年 部長 高橋 葵衣さん
たかはし あおい

eスポーツ同好会は様々なゲームのジャンルを通してオンラインイベントや対面イベントなどで交流を深めるサークルです。活動頻度は月に数回オンライン上でゲームを楽しんだり、月に1回対面イベントを設けてゲームをしながらサークルメンバーとの会話で親睦を深めるという活動をしています。また大会や他大学との交流戦などで自身のゲームの腕前を確かめ、本気でゲームに取り組むメンバーもたくさんいます。何より共通の趣味を持った人が多いので、とても有意義な時間を過ごせることが魅力だと思います。

最近はゲームを通した様々なプロジェクトやイベントの運営に力を入れており、そのような活動に興味がある方を積極的に募集しています。あなたのゲームに関する知識、生かしてみませんか?



ご存じですか?
数字で見る
工大
～ 創立年数篇 ～

創立
59年

1964

2023

「1964年に創立した本学は、来年で60周年を迎えます!」

創立年数は、大学開学(1964年4月)から2024年4月1日時点の年数。
なお、学校法人(1960年10月設立)は2023年10月19日で創立63年を迎えます。



キャンパス通信

◆「OPEN CAMPUS 2023」を開催

6月から8月にかけて2023年度オープンキャンパスを開催しました。オンライン併用のハイブリット型だった昨年と異なり、今年は完全対面型で行いました。今年は、第1回6月24日(土)、第2回7月22日(土)・23日(日)、第3回8月26日(土)の開催で総来場者数は2,371人でした。

学科企画や模擬授業、キャンパスナビゲートなどの本学の特色を紹介した企画の他、入試対策として高校3年生向けの2024年度

入試対策講座と1・2年生向けの新課程入試説明会を行いました。アンケートに答えてくれた来場者に本学オリジナルグッズをプレゼントしました。

オープンキャンパス当日の様子は、本学Webサイトに掲載しています。



2023年度 オープン
キャンパスの様子は
こちらから



学科企画での実験の様子



模擬授業の様子



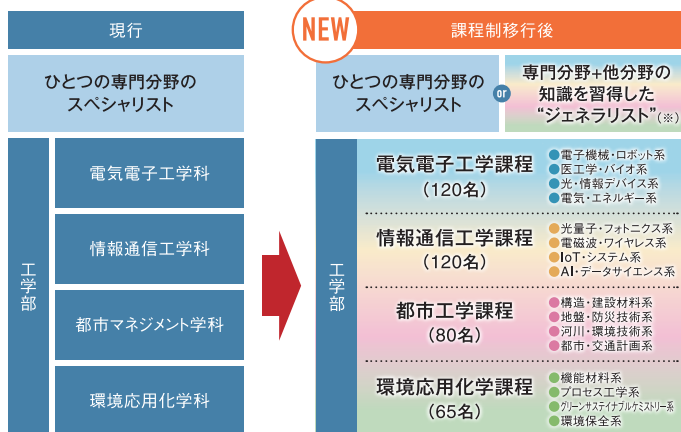
クラブパフォーマンスを披露

◆2025年度改組説明会を実施

8月26日(土)に開催した第3回オープンキャンパスで高校1・2年生を対象とした「2025年度改組説明会」を実施しました。

2025年度4月に改組予定の工学部、ライフデザイン学部の説明を多くの高校生が熱心に耳を傾けていました。

今回の改組で工学部は「学科制」から「課程制」へ移行します。学科制から課程制に変わること、学問の分野を横断した学びが実現し、複数分野にわたる知識とスキルを獲得できるようになります。ライフデザイン学部は学部の更なる発展のため、学部としての一体化を目指し経営コミュニケーション学科を経営デザイン学科に名称変更するとともに3学科を横断した学部一体の教育を図るため、副専攻制度の導入を行います。



※ジェネラリスト：広範囲にわたる知識や経験を持つ人材

改組の詳細は本学Webサイト特設ページをご覧ください。



※本計画は構想につき、掲載内容は予定であり、変更となる場合があります。



オープンキャンパスでの説明会の様子

◆2023年度仙台七夕まつりの七夕飾り付け個人審査で 本学学生が制作した七夕飾りが銅賞を受賞

8月6日(日)～8日(火)の3日間、コロナ禍が落ち着き、4年ぶりに通常開催となった今年の仙台七夕まつり。今年も、本学公認団体「たまごくらぶ」を中心とした学生有志が七夕飾りを制作し、サンモール一番町のアーケードに設置しました。

サンモール一番町商店街南側入口に設置された今回の七夕飾りは、青を基調とした涼しげな印象のもので、吹き流しはカラースプレーをかけて仕上げるという工夫を凝らしました。作業時の苦労はもちろん、竹を立てる際、また七夕を吊る際にもトラブルに見舞われましたが、商店街個人賞として「銅賞」を受賞しました。

実際に、七夕飾りの前で足を止める人、写真を撮る人も多く、作品の良さが伝わっていたことを感じました。



サンモール一番町のアーケードに設置した七夕飾り

◆「文具女子博学園祭 in 仙台2023」を開催

8月3日(木)～6日(日)の4日間、八木山キャンパスで「文具女子博学園祭 in 仙台2023」が開催されました。これは本学ブランディング事業の一環として、本学に入学したことのない方や知らない方に本学を知ってもらう機会として会場を提供し開催したものです。

イベントでは本学学生が看板や来場者配布用のカードをデザイン。会場となる教室に黒板アートを描くなど、当日の運営を含め多くの学生たちが活躍しました。

「未来のエスキースを描く。」のスローガンとともに大学の明るい雰囲気を知ってもらえる機会となりました。



会場の様子



「kitpasでガラスにお絵描き」

◆本学公式YouTubeチャンネルに「学生を育てる教育力」の動画を公開

本学公式YouTube「TOHTECH CHANNEL」では、「学生を育てる教育力」の動画を公開しています。本学の教員が、学生の力を伸ばすためにどのようなことを考え、工夫し、日々の授業を作り上げているのか、またそこからどのような力を身につけて欲しいと願っているのかなど、授業を受講する学生の声を交えながら語っています。

今回、シリーズ第3弾として工学部 電気電子工学科 辛島 彰洋 教授とライフデザイン学部 生活デザイン学科 大沼 正寛 教授の動画を公開しました。ぜひ視聴してください。



工学部 電気電子工学科 辛島 彰洋 教授



ライフデザイン学部 生活デザイン学科 大沼 正寛 教授

◆令和5年度東北工業大学奨学生について

令和5年度の東北工業大学奨学生は、学業最優秀奨学生8名、学業優秀奨学生18名、学業一般奨学生175名、課外活動一般奨学生5名が奨学生として決定しました。(合計206名:実数)

選考人数は、各学科の学生数に概ね比例していますが、課外活動奨励奨学金は学科枠に関係なく選考されました。

【学業奨励奨学金】

●学業最優秀奨学生(8名)

電気電子工学科	情報通信工学科
3年 佐々田 大望	4年 柳沼 愛翼
建築学科	都市マネジメント学科
4年 佐藤 恵太郎	2年 渡邊 大桜
環境応用化学学科	産業デザイン学科
4年 太田 有希乃	3年 柴田 沙和
生活デザイン学科	経営コミュニケーション学科
2年 三浦 百花	4年 庄司 晃渉

●学業優秀奨学生(18名)

電気電子工学科	情報通信工学科	建築学科	都市マネジメント学科
4年 菊池 香助	3年 白石 光汰	4年 加藤 聡樹	4年 植澤 聖
3年 高橋 央輔	2年 松崎 翔大	3年 松田 凌真	3年 石川 蒼人
2年 小山 航		2年 小野寺 惟頼	
環境応用化学学科・環境エネルギー学科	産業デザイン学科	生活デザイン学科	経営コミュニケーション学科
3年 青木 玲穂	4年 佐藤 あま音	4年 瀧澤 諒	3年 野村 歩聖
2年 桜田 珠里	2年 西城 碧泉	4年 矢崎 茉梨	2年 菅野 桃果

●学業一般奨学生(175名)

電気電子工学科	情報通信工学科	建築学科	都市マネジメント学科	環境応用化学学科	産業デザイン学科	生活デザイン学科	経営コミュニケーション学科
4年 大久保 亜偉輝 角田 心平 神尾 隆成 紺野 奈々 高橋 紘翔 村上 世連 横山 輝 杉澤 颯太 清野 真生 野田 楓真 3年 長田 真優 佐藤 明 永澤 颯太 藤田 雅樹 山口 雄士朗 郷古 翼 小番 琉稀 滝口 智稀 2年 味岡 陽翔 阿部 航汰 佐藤 銀河 佐藤 陽太 下平 大夢 高田 柊 田中 友展 幕田 奈々恵 井上 卓哉 鈴木 優真 持主 太陽	4年 泉田 亮 小田 真舞 佐藤 旭希 佐藤 嵩成 柴崎 高良 福土 雅弘 白井 海音 寺崎 翔太 増子 大貴 3年 大黒 鉄人 小熊 健太 佐藤 楓 佐藤 悠冬 岩井 涉 遠藤 涼生 菊池 麻友 佐次 寛昇 千葉 祐輝 林崎 裕太 松本 太智 2年 伊藤 貴太 佐々木 成実 福田 結也 松浦 行成 伊東 宏樹 太田 里太 大和田 樹 藤田 映 藤谷 光一	4年 大子田 菜々生 奥山 ちさと 山田 祐翔 秋葉 美緒 小澤 奏斗 海道 遥佳 塙 龍也 3年 村上 智 夏梅 蓮 保原 愛奈 槇 将吾 大村 伊吹 笹原 優伽 鈴木 咲梨花 千葉 洸暉 渡辺 陸斗 2年 赤坂 彪真 大石 実優 菊池 鯉仁 庄子 諒 曾根 爽花 田邊 澁貴 土田 沙和 日野 優奈 八島 美悠 浅野 颯太 折笠 礼奈 櫻井 琴音 佐藤 瞳衣 高橋 凜 寺澤 千桜 向川 史紘	4年 薄田 啓太郎 宮川 陸 猪股 和希 澤野 貴裕 下村 凜太郎 関谷 拓真 3年 飯野 温大 小野寺 翔 児玉 睦希 澁谷 遥希 佐藤 大紀 2年 安達 涼 中山 心暖 小野寺 涼 熊谷 康義 佐藤 悠	4年 近藤 駿真 堀 秀斗 佐藤 裕太 3年 上田 尚史 齋藤 旭 齋藤 蒼士 2年 浦田 愛菜 新関 郁美 橋本 麗菜 奥山 大聖 酒井 翼颯 佐藤 凜	4年 佐藤 結佳里 戸田 遥 萩原 ちか歩 樋岡 亮音 平野 真衣 高瀬 祈 渡邊 一太 3年 安彦 美郁 小澤 稜 前野 ひなき 柏谷 祭喜 永野 紫陽 2年 加茂 凜々子 高橋 朋也 今井 遥名 佐藤 雪乃 高柳 風牙 目黒 香凜 柳澤 京吾	4年 赤沼 友彌 森田 凜子 福原 七瀬 遠藤 幸登 佐藤 梨花 土川 菜寛 3年 五十嵐 菜々 阿部 遥 佐藤 未悠 佐藤 芽生 2年 大山 翔太 小野寺 恵里奈 菅井 梨理 高橋 理那 早川 宙来 宮川 紗依 阿部 彩夏 田部 晴暉 馬場 光希	4年 菊地 湧介 金 直宏 菅原 湊太 高橋 快征 高橋 陽東 新田 蓮斗 芳賀 拓海 本田 明莉 林 侑杜 3年 伊藤 透矢 岩淵 楓 高野 駿 高橋 花恋 千葉 嵐士 松樹 優佑 2年 伊藤 拓真 廻立 晃誠 伊藤 隆誠 須田 颯太

【課外活動奨励奨学金】

●課外活動一般奨学生(5名)

学科	学年	氏名	活動内容
産業デザイン学科	4年	渡邊 一太	JAGDA国際学生ポスターアワード2022 入選 日本タイポグラフィ年鑑2023 学生部門 入選
経営コミュニケーション学科	4年	岩本 功太	第39回全日本級別サーフィン選手権大会 準優勝 (ショートボード・メン・マスター 4・5級)
情報通信工学科	3年	山田 美月	第49回東北総合体育大会ボウリング競技 成年女子2人チーム戦 優勝 第49回東北総合体育大会ボウリング競技 成年女子4人チーム戦 3位 第60回全日本大学ボウリング選手権大会 4位
都市マネジメント学科	3年	須藤 結子	第63回全日本理工科学生柔道大会 女子個人の部 準優勝
生活デザイン学科	2年	佐久間 永翔	令和4年度仙台六大学野球秋季リーグ戦 優秀新人賞

Event

10・11月の一番町ロビー催事案内

※2023年8月より、開館時間を下記に変更しております。

●開館時間／10:00～17:30(最終日は16:00まで) ●休館日／水・木曜日 ●入館料／無料

●生活文化学オープンラボ「ひとを結び、まちを創る」

主催：東北工業大学 生活デザイン学科／生業景デザイン研究所

10月6日(金)～10日(火)

「ひとを結び、まちを創る」とは、生活デザイン学科の新しいビジョンです。福祉・環境・文化の3領域で、研究・教育・地域をめぐるひとを結び、まちづくりを探索します。今回は塩竈・丸森・加美等をフィールドとした「生業景と文化のまちづくり」を紹介します。



学生フィールドワークのコマ
(旧塩竈市公民館大講堂にて)

●仙台友の会 生活工芸グループ作品展

主催：仙台友の会 生活工芸グループ

10月13日(金)～17日(火)

自由学園工芸研究所の「図案から制作へ」を参考に花などをスケッチ、デザインからオリジナルの心豊かになるものを様々な手法で制作しました。



●ラボ展～東北工業大学 意匠学生ラボ展示会～

主催：東北工業大学 意匠学生ラボ

10月20日(金)～24日(火)

「意匠学生ラボ」は、東北工業大学産業デザイン学科の学生で構成された学生デザイン団体です。デザインを通して東北を豊かにしたいという意思の下、デザインの知識と実践で培った経験を無料で提供しています。今回はどんなメンバーが所属しているのか、どんな活動をしているのかをご紹介します。



●脳が喜ぶ! 心が笑う! 臨床美術士の作品展

主催：みやぎ臨床美術とつながる会

10月27日(金)～31日(火)

臨床美術とは、下手も上手も関係なく、誰もが楽しみながら作品をつくることのできる、アートのひとつです。認知症の症状改善を目的として始めましたが、今では子どもや社会人など、さまざまな方々に実施されています。今作品展では臨床美術アートプログラムを、さまざまな現場で活躍している臨床美術士が制作した作品を展示いたします。



●キオクノカケラ

主催：堀内七重(グラフィックデザイナー)

11月3日(金)～7日(火)

昨年の佐藤俊一郎氏との二人展を機会に、今秋初めての個展を開催することになりました。記憶の中の自分と交差する「色やカタチ」を気ままに表現。会場での雰囲気を楽しんでいただけたら嬉しく思います。

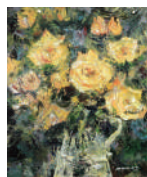


●第23回 どうしん会展

主催：どうしん会

11月10日(金)～14日(火)

絵を愛する仲間が集まって23年、個性を尊重し仲間作りも大切にしてきました。テクニクだけに頼らない個々の作風が魅力です。風景、静物、人物、ドローイング、抽象と小品を中心に展示いたします。多くの方々にご覧いただければ幸いです。



●佐藤 俊一郎 個展

主催：佐藤 俊一郎(東北工業大学 工業意匠学科1974年卒業) 協力：東北工業大学 産業デザイン学科 篠原良太研究室

11月17日(金)～21日(火)

日常の移ろいを心のフィルターを通して抽象画をメインに表現していきます。作品を通して何か感じていただければ嬉しいです。(在学当時から木版画に取り組み、現在も作品の制作を続けています。)



●IUW2023「TOHOKU(東北)復興～建築と記憶」

IUW2023実行委員会 ※IUW:Inter-University Workshop

11月24日(金)～28日(火)

IUWは、大学・まち・専門家の協働による大学間ワークショップです。3回目となる今回は、宮城県七ヶ浜町を対象とし、関東と東北の10大学が取り組んでいます。建築・都市・ランドスケープの観点から現状の壁を打破する、創造的で大胆な学生の提案を、ぜひ多くの方々にご覧いただきたいと思います。



七ヶ浜町、葛蒲田浜の眺め

サテライト
キャンパス

一番町ロビー
X(旧Twitter)



Schedule

2023年度10月～1月の 主な行事予定

10月

- スポーツ大会
13日(金)
- 大学祭
(ミニオープンキャンパス)
14日(土)、15日(日)

11月

- AOVA選抜
1日(水)
- 父母懇談会
11日(土)
- 指定校推薦型選抜、
社会人特別選抜、
外国人留学生特別選抜、
編入学選抜
24日(金)
- 工大サミット
25日(土)

12月

- 専門高校・総合学科選抜、
公募制推薦型選抜、
公募制推薦型女子特別選抜
11日(月)
- 冬季休業
25日(月)～1月5日(金)

1月

- 大学入学共通テスト
13日(土)、14日(日)
- 後期定期試験
30日(火)～2月2日(金)



第48回工大祭『Contrast』 2023年10月14日(土)、15日(日)

第48回工大祭のテーマは『Contrast』です。楽しいだけではない日々を過ごす皆さんをこの日だけは「明るく」照らしたいという、想いを込めました。

昨年、コロナ禍を乗り越え、本格的に復活した工大祭をさらにパワーアップして皆さんにお届けしたいと思っています。ぜひたくさんのご参加お待ちしております。

※詳細については、第48回工大祭Webサイトをご確認ください。



●第48回工大祭『Contrast』

◀ Webサイトはこちら
<https://www.tohtech-gakuensai.com/48th>

おしえて！ 工大のひみつ



今回のテーマ 長町キャンパスの歴史

今回は、緑豊かな長町キャンパスの変遷を見ていきます

— いつできたの？ —

1990(平成2)年に二ツ沢キャンパスとして開設したんだ。本学は発足以降、学科の増設や収容定員を増やしてきたから、香澄町キャンパス(現八木山キャンパス)は手狭になってしまったんだって。特に将来構想の策定上、最大の懸案事項となっていた校地問題を解消するために、大学は二ツ沢に19万4千㎡もの土地を取得したんだ！

— 建物は、どんな順番で建ったの？ —

香澄町キャンパスが専門教育を、二ツ沢キャンパスが教養教育を行う場と位置づけられ、教育・研究棟、体育館、学生ホール、運動場が整備され、この後、1997(平成9)年には教育・研究棟の2号館が建設され、翌年には文部省認可のハイテクリサーチセンターを設置したんだ。更に、2004(平成16)年には学生の課外活動の拠点ともいえる第2クラブ棟が、本学OBによる設計・施工で建設され、一段と教育研究環境が充実したんだよ！

— いつから長町キャンパスになったの？ —

2008(平成20)年に大学を2学部制とすることを決定し、新たに生まれたライフデザイン学部をここに設置することにして、名称も長町キャンパスと改められたんだ。従来の1、2号館の改装と整備後、3号館と4号館が新設されたんだ。



僕たちにも会いに来てね！



くろみつ(ヤギ)・・・「ヤギプロジェクト」で飼育されているヤギ。除草作業や地域の方々との触れ合いに大活躍中。長町キャンパス在住。好きな食べものは草。

こころの相談室

学生サポートオフィス カウンセラー 佐々木 芽吹

● 今回のテーマ

リフレーミング～心をちょっと軽くするコツ～

リフレーミングという言葉をご存じですか？これは、物事の枠組み(フレーム)を一度外して別の視点で捉え直すことを意味した心理学の用語です。例えば、目の前に水が半分入ったコップがあるとしたら。これを「もう半分しかない」と捉えたと残念に感じますが、「まだ半分もある」と捉え直してみると、不思議と安心した気持ちになりませんか？ネガティブな思考もリフレーミングの技法を使うことにより、少しだけプラスに物事を考えることができるようになります。そうすることで、自分の欠点だと思っていたところが実は長所だと気づくことができたり、相手の良いところを見つかることができ人間関係が良くなったり…ということにもつながります。例えば、マイナスイメージのある「頑固」をリフレーミングしてみると、「一貫性がある」「意志が強い」「信念がある」と捉えることができ、「心配性」をリフレーミングしてみると、「慎重」「人に気を配れる」と捉え直すことができます。

目の前の物事を変えることはできなくても、少しだけ心を軽くすることができるかもしれません。ぜひ、日常生活にリフレーミングを取り入れてみてはいかがでしょうか。

- 八木山カウンセリングルーム TEL: 022-305-3130
 - 長町カウンセリングルーム TEL: 022-304-5587
- 【開室時間】月曜日～金曜日(10:00～16:00)

表紙の声



ライフデザイン学部 産業デザイン学科4年
さとう けいご
佐藤 慶悟さん

アルバイト先のデザイン会社で、農産物のパッケージデザインに取り組んでいる佐藤さん。地域創生を支える「リ・デザイン」の若き担い手として、周囲の期待が高まっています。

最先端がいっぱい！

Tech-Lab 探検隊



1-2F 建築・土木系実験室を中心としたフロア



2022年9月、東北工業大学八木山キャンパスに「ひろく学び、知をつなぐ」新たな学びの場が誕生しました。キャンパス内に分散していた工学部・建築学部各学科の実験設備(装置・機器)を新設した実験・教育棟(Tech-Lab/テクラボ)に集約しました。

1～2層吹き抜けの大空間はガラス張りで、大型設備を使用した実験の様子が廊下や外部から「見える実験室」となっています。構造躯体や設備配管も現しになっていて、建物そのものが教材となります。建築学科の「材料実験」や都市マネジメント学科の「水理実験」等、大型機器を使用する実験が行われます。



詳しくは
本学Webサイト
「実験・教育棟
Tech-Lab」

東北工業大学 ブランドスローガン

未来のエスキースを描く。

このブランドスローガンは、本学の建学の精神に基づく基本理念を端的に表現するとともに、本学が歩むべき未来への強い意思を表すものとして2022年に制定しました。

本誌「LABORATORY REPORT」では、本学教員それぞれが描く「未来のエスキース」についても語ってもらい、その信念や展望に迫ります。



東北工業大学ブランドサイト
<https://www.tohtech.ac.jp/brand/>

